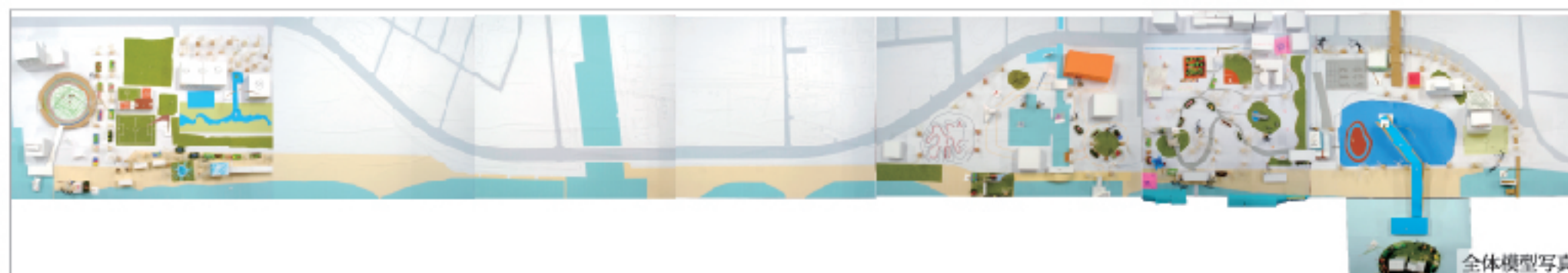


WS1_ 目的と概要



集合写真



全体模型写真

【目的と概要】

日時 2013年11月16日(土)13:00-16:00

場所 稲毛海浜公園 稲毛ヨットハーバー管理棟

参加者 公園近隣に住む小学校高学年9人

主催 千葉大学岡田哲史研究室・三谷徹研究室、千葉市緑政課

協力 千葉大学教育学部藤川大祐研究室

目的 20-30年後の稲毛・幕張海浜公園の未来像について、近隣の小学生に模型をつくりながら考察してもらい、海辺のランドデザイン策定のための有用な資料にする。

概要 小学生をくじ引きによりa-dの4グループに分け、公園内の一部分をそれぞれのグループが担当した。全体を1「導入」、2「ディスカッション」、3「スケッチ」、4「中間発表」、5「模型作成」、6「最終発表」の順番に構成した。導入のため大学生から当共同研究業務について説明し市長からのビデオメッセージを放映した。次にグループに分かれてディスカッションを行った。付箋にアイデアを書き出しそのアイデアをスケッチして各グループが中間発表をした。その後模型を作成し全員で成果を共有した。発表の機会を複数回設けて小学生に公園全体の考察を促した。参加賞に加えて最もよい公園の将来像を作ったグループを表彰する「未来模型大賞」を設けた。

【当日の流れ】



⑥「最終発表」、未来模型大賞の発表

【プログラム】

開会	13:00~13:05	5分	開会	・開会の挨拶
1.導入	13:05~13:10	5分	自己紹介	・自己紹介(司会、先生、千葉市職員方、担当大学生、小学生)
	13:10~13:20	10分	グループでアイスブレイク	・グループ毎に絵しりとり(3分*2セット)
	13:20~13:25	5分	プロジェクト説明 市長からのビデオメッセージ	・スライドでプロジェクト紹介(海辺のランドデザインの主旨) ・熊谷市長のビデオメッセージを流す
	13:25~13:30	5分	公園の全体像とワークショップの手順を説明	・パワーポイントを用いて公園の航空写真、大まかな現地写真を見せる ・ワークショップの手順を説明
2.ディスカッション	13:30~13:45	15分	グループで公園を分析	・エリアごとの詳細な写真を見て、小学生に敷地を考えてもらう ・エリアに何が必要か考え、付箋に書いて航空写真に貼付けていく
3.スケッチ	13:45~14:00	15分	アイデアを考える	・グループごとにエリアに欲しいもの、問題を解決できるアイデアを描いてみる ・ラフなスケッチを書き、最後に何をデザインするか決める
4.中間発表	14:00~14:10	10分	聴きたいアイデア発表	・各グループで考えたアイデアを発表
休憩	14:10~14:20	10分	休憩	
5.模型作成	14:20~14:50	30分	アイデアをデザインする	・小学生が紙に絵を書いて建物をつくっていく、樹木などの植の要素については大学生が用意した物を使う
	14:50~15:15	25分	土台に並べる	・デザインで出来たアイテムを模型の土台に配置していく
	15:15~15:35	20分	全体デザイン	・各グループでつくったエリアを繋げる ・エリア同士の道の通や建物の疎密を検討する ・小学生に自分のオススメスポットを旗で置いてもらう
6.最終発表	15:35~15:50	15分	作品発表、未来模型大賞発表	・各グループが発表、感想を発表する ・発表を受けて岡田先生が大賞を決定
閉会	15:50~16:00	10分	閉会	閉会の言葉

【A グループ】（幕張海浜公園 OVCマリンフィールド周辺）

A グループのエリアは、スタジアムなどに人が集まる祝祭時の公園としては道が狭く暗く殺風景であること、また平常時の公園としては公衆トイレ、駐輪場、遊具、おおよび植栽などの整備不足が課題として挙げられた。

ディスカッションの結果 A グループは既存の QVC マリンフィールドをこのエリアの中心的な施設として位置づけた。エリア全体をスポーツ関連ゾーンとし、サッカー、フットサル、バレー、バスケット、テニス、卓球などのプレイコートを集約して設け、それらを彩り豊かな植栽によって繋ぎ道路を整備するなど、祝祭時の利用方法に関する提案が見られ、また、展望塔、海の家を設けるなど遊泳禁止の近辺に対する新たな提案も見られた。

既存施設に対する意見	公園の発展に対する意見	公園に付随すべきプログラム
ホタルがほしい	夕陽がきれい	水遊びしてほしい
キャッチボールができる	親子関わりができる	トイレがほしい
盛り台を遊ばせたい	遊具が見える	海が見える場所が欲しい
遊具が壊れない	視界が多い	記念撮影スポットが欲しい
自転車と歩道・車道の区画を入れ替えてほしい	夜景がきれい	売店が欲しい
伊勢崎がきれい	富士山が見える	QVCマリンフィールドへ行く 道がほしい
遊具等を使いやすくしてほしい	鳥がつかれる	
おしりおれを斜め付けてほしい	景色がきれい	
道がきれい	遊歩帯が狭い	
プールを夏場にかえてほしい	花がきれい	
QVCマリンフィールドを バリアフリーにしてほしい	自然観察道が少ない	
	水が多すぎて観察道が少ない	
	夕陽が見えるようにしてほしい	
	遊具がない	
	海で遊ぶようにしたい	

【B グループ】（稲毛海浜公園 ヨットハーバー周辺）

Bグループのエリアはヨットハーバーや海を感じられる要素があるにも関わらず、木々によってそれらを直接感じることができないこと、道が分かりにくいことが課題として挙げられた。

ディスカッションの結果Bグループは海を感じられる公園を制作することを目標とし野外音楽堂を海上に新築しこれと周辺の施設を結ぶために広場を作成した。この広場に加え海とヨットハーバーを見渡せる丘、ヨットハーバーと稲毛海浜公園を結ぶ橋など公園内のゾーニングを考慮した提案が見られる。既存の施設を発展させたサーキット場、海上音楽堂へ行くための船寄せ場も提案された。海とのつながりを考慮して公園内の既存の施設やゾーニング相互の関連性を強めることが意図されている。

既存施設に対する意見	公園の景観に関する意見	公園に付加すべきプログラム
排水溝が無い	海が見えて見える	無い
内へろ岸にわたれない	海が無い	
距離を測り道がわからない	道が通って入れない	
海が遠いので見えにくい	無い	
	水が近くさんおって晴しい	
	道だけで綺麗	
	海が見えない	
	人が少ない	
	運動している人がいる	
	水が近くさんおる	
	海が綺麗	
	海からのゴミをひろう道がある	

QVCマリンフィールドから直接船着き場へ伸びるデッキ

船着き場

市役所支部

展望塔

スポーツ関連施設
(サッカー、フットサル、バレー、バスケット、テニス、卓球)

海の家

花壇が並び海まで続く遊歩道

ホテル

広場に設置された親水空間

A

海・ヨットハーバーへの視野を確保するための木の間伐

サーキット場

ヨットハーバーと海を見渡す丘

船寄せ場

ヨットハーバーに直接入れる道

デパート

スポーツセンター

ヨットハーバー・海上音楽堂を結ぶ広場

ピアノを演奏するための海上音楽堂

海を感じる芝生の広場

稲毛ヨットハーバーと稲毛海浜公園をつなぐ橋

ホテルと体育館

プールを拡張

海への視界を確保するため木を間伐

ウォータースライダーを海へと拡張

展望台

ホテル

中央卸売市場と公園をつなぐ橋

飲食店

飲食店

既存樹木の伐採

船着き場